

No.2357

上越国境馬蹄形コース

谷川岳から白毛門

実施日 2008年6月15日(日)~17日(火)

天候 晴れ

リーダー 若村 勝昭

参加者 若村勝昭、服部美千代、島本陳重、鈴木恵美子 4名

費用 交通費 新幹線 8,500円、タクシー 1,900円、ロープウエー(片道) 1,200円、肩の小屋(2食、寝具は各自持参)5,500円

蓬ヒュッテは管理人万年さんの厚意で無料のため、小屋修復の一助として寄付をした。

タイム 15日 天神ロープウエー駅(10:25) 熊穴沢避難小屋(11:30) 谷川岳肩の小屋(13:15) 泊

16日 肩の小屋(5:15)一の倉岳(7:05)蓬峠(11:00)清水峠(13:00~14:30)蓬峠(16:30)蓬ヒュッテ 泊

17日 蓬ヒュッテ(6:10)土樽林道入口(8:30)

15日 ロープウエーは明日から運休とのこと。よかった。好天の下、汗をかきつつ登る。肩の小屋は増築され、キレイになっている。トイレも快適。トマの耳からの上越国境の山々の眺望が素晴らしい。

16日 今日も好天、稜線歩きを楽しむ。茂倉岳、武能岳から蓬峠への草原のような道を快調に歩く。蓬ヒュッテの前でのんびりしてから、清水峠へ向かい避難小屋にザックを置く。水場を探しに全員で出る。

以下は、事故報告書に続く。

1. 16日 13:00 宿営予定地清水峠避難小屋に着き、ザックを降ろした。
2. 近くの水場(清水部落方面冬道方向8分の沢)へ行き、島本さんが4本爪アイゼン着用の上、ストックを持ち、全員(4名分)の水筒を袋に入れて水汲みに行った。
3. 水場は幅約10m、長さ30m位の雪渓で上部と下部は沢が露出して水が流れている。
4. 島本さんは、上部約10mへ、雪渓ふちの笹をつかみながら登り、沢で水を汲んだ。
5. 水筒を袋に入れ、雪渓ふちを約5m下ったところ転倒し、右腕肩を脱臼した(13:30)。
6. このとき「ゴキッ」という音や痛みなどで、右上腕部非開放性単純骨折と判断した。
7. 水場から清水峠避難小屋へ戻り、患部をエア一副木で固定、三角巾で吊った。なお、開放性の傷は皆無なので消毒、止血等はおこなっていない。
8. 直ちに清水峠から下山することを決め、110番TELするもアンテナ立たず、蓬峠まで戻ることとした。
9. 島本さんのザックは貴重品以外は清水峠避難小屋に残置した(回収については後述)。
10. 14:30 蓬峠へ向け全員で出発。島本さんは痛みを耐え気丈に独歩した。痛み止め2錠を服用。ときどきエア一副木の空気を抜いてゆるくした(腫れて圧迫しすぎるため)。途中七つ小屋山を越えたあたりでアンテナ立ち、警察へ通報、ヘリ出動を要請した(15:30頃)。その際、通報者の住所、氏名、生年月日、TEL、職業、行程、同行人数、負傷者の住所、氏名、生年月日、TEL、職業、負傷の程度、原因を聞かれた。また、ヘリの必要性についてもかなり詳細に聞かれた。
11. その後、県警本部から南魚沼警察へ引き継がれ、連絡が入り蓬峠でヘリ回収とのこと。会合時間は17:30頃を予定した。

- 12.16:30 蓬峠ヒュッテに到着、寒くないようにシャツやフリースをかけ休ませた。ヒュッテ管理人（万年さん）にも声をかけ事情を話しておいた。
- 13.その間にもまた警察より TEL 入り到着時間の確認があった。ヘリは収容後は直近のヘリポートに向かい、そこから直ちに病院に収容するとのこと。こちらは、付き添いは鈴木恵美子さんをお願いしヘリ同乗することとした。本人の保険証や手持ち現金の確認をおこなった。またその後の連絡方法や対応も4人で打ち合わせた。
- 14.17:10 新潟県警ヘリ「こしかぜ」ヒュッテ横広場に着陸、直ちに本人と付き添い1名を収容し飛び立った。
- 15.17:30 若村、服部2名は土樽に向かい下山開始したが、極めて疲労を自覚したので、引き返し蓬ヒュッテに投宿した。下山前、管理人（万年さん）は「こんな時だから料金は要らないから泊まっていきなさい」と勧めてくれた。戻って宿泊する時も、「料金は要らない、遠慮しないで」と言ってくれ、料金(1人7,000円)を固辞された。
- 16.19:30 頃小屋外のアンテナ場所から鈴木さんの携帯に通話し「島本さんは肩の脱臼」とのことです。少し安堵した。入院も不要で帰京できるとのこと、服部さん、万年管理人もほっとしてくれた。この間鈴木さん、島本さんから7回留守 TEL あったが受信できなかった。
- 17.翌朝 6:10 土樽へ下山、万年さんも同行してくれ、林道終点からは自家用車で越後湯沢駅まで送ってくれた。服部、若村の両名は「駒子の湯」で一浴、帰京した。
- 18.島本さんのザックについては、万年さんが「自分が時間ある時に回収しておく、また下山したら宅急便で送る」といって頂いた（決して当方からお願いしたものではありません。万年さんの方から申し出てくれました）。心苦しいが、ご好

意に甘えることし、お願いした（もし、あらためて回収に登山するとしたら蓬・清水峠間は往復4時間、土樽・蓬峠間は往復5時間、計9時間必要）。

- 19.17日帰京後、島本さんに TEL したところ、「病院で肩の固定をした、全治3ヶ月」とのこと。1日も早い快癒をお祈り申し上げます。
- 20.負傷された島本さんは激痛に耐え、終始気丈に行動していらっしゃいました。敬意に耐えませんが、また服部さん、鈴木さんは冷静かつ的確に行動の変更や、警察との連絡などに対応していただきました。感謝に耐えませんが、
- 21.今回、新潟県警と蓬ヒュッテ管理人万年さんにひとかたならぬお世話になりました。ヘリ搭乗員の凛々しく頼もしい表情、110番の係官の気遣ってくれる優しい口調、グレイとブルーの機体のヘリ「こしかぜ」の力強さ等々が忘れられません。そして蓬ヒュッテ管理人万年さんの飾らない言葉の中にもあふれる温かさが身にしみました。因みに、万年さんは2年前から蓬ヒュッテ管理人になり、登山者のお世話をしてくれています。30歳半ばの方で、前の管理人とは全く違う印象の方です。隠し味に工夫を凝らしたカレーライスと新鮮野菜のサラダをご馳走になりました。現在、年間300人位しか宿泊者がいないので、小屋の運営は大変そうでした。

今回、思わぬことで、官・民の皆様のお世話になりました。本当にありがとうございました。

以上、とりあえず山行事故の報告申し上げます。皆様にご心配をかけ申し訳ありませんでした。

(記・若村 勝昭)